



は、子どもたち
ちの間で広が
りやすい傾向
もあるので、
早めの対応が
必要です。

新緑の中に、色とりどりの花が咲きほこりキラキラ輝いています。鯉のぼりのように、笑顔で元気に活動する子どもたちと重なります。

新年度が始まり1か月。新入児をはじめ全園児が新しい生活に慣れ、元気に遊びや活動に取り組んでいます。また、各



クラスや園の運営等も軌道に乗りつつあります。これもひとえに保護者の皆様のご協力のおかげです。

行動の背景を考える

新しい生活に慣れてくると子ども同士のつながりや行動範囲が広がってきます。同時に、かみつきの等のトラブルも頻発します。

～ 0歳児のかみつきの～

始まりは、コミュニケーションの一部であることが多いです。かみつきの行動

園でかみつきの出ている子どもは、父母にかみついていることも多いようです。その行為を他の子も手段として覚えてしまうとクラスに

広がる場合があるので、保護者の方と状況を共有しながら対応を共に考えてまいります。



～ 1～2歳児のかみつきの～

自我の表現や自己主張の手段として現れます。現象としては、玩具や場所の取り合いなどに見えることがほとんどです。なかには、とおりすがりにかみついたり、引っかいたりという姿も見られます。

このようなとき園では、玩具の一人当たりの量を増やしたり、遊びの空間が重なり合わないようしたり、間に保育者が付くなどの配慮をします。そして、両者の思いや言い分を聴いてあげようとしています。



自分がやったことを十分に認めてもらったことは、かみつきが少ないと言われています。

例えば、子どもが泣いている時に「**どうしたの？くやしかったね。**」などと子どもの気持ちに添えてあげる、子どもがボールを投げた時に「**わあ、上手に投げられるんだね！**」などと投げたことにしっかりと応答するなど、大人が子どもの行動に共感し、その子の行為や思い、存在を大切にしていけることが必要です。

子どもたちがかみつき等によって表現せざるをえない深い思いを理解し、**罰や報酬、隔離ではなく、また、単にエネルギーを発散させるだけでない豊かな対応**を大人が考えなければなりません。

園では、どのような対応方法がよいか試行錯誤しています。これからも保護者の皆様と共に考えていきたいと思えます。また、かみつきやひっかき等は、この時期の子どもの発達段階の一つとしてご理解いただければ幸いです。



入園式(4/1)

新入園児とその保護者の方々が
おひさまこども園に慣れてこられる
様子を拝見し、安心しております。
ご不明な点や心配事がありましたら、
いつでも遠慮なく職員や
周りの保護者の方々にご相談ご連
絡ください！



クラス懇談会(4/4)

年度初めのご多用の折、ご出席ありがとうございました。子どもの様子や園・クラス経営等について、直接お話する有意義な機会になりました。ご意見等を活用させていただきます！

